

令和7年度 学校自己評価（前期）

中津市立豊田小学校

1 学校の教育目標

ことばを大事にし、いつでもどこでもだれとでも高め合う豊田っ子を育てよう！

2 育成を目指す資質・能力

コミュニケーション能力

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評価判断基準
A …達成率90～100%
B …達成率70～ 89%
C …達成率60～ 69%
D …達成率60%未満

生きて働く知識・技能の習得

思考力・判断力・表現力の育成

学びに向かう力、人間性等の涵養

働き方改革の推進

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	◇〔成果と課題〕、及び ★〔次期（次年度）に向けての（取組）〕
基礎・基本を着実に身につける 子どもの育成	①国語・算数の単元テスト【知・技】の平均80点以上	学校	◆主体的な学びを育てる「みんな活躍授業」の日常化	◆算数を中心に、「めあて・課題・まとめ・振り返り」、「キーワード」を位置づけ、基礎基本を伸ばすために子どもが自分の考えを持てるような見通しの工夫をする	B	◇達成率は5月末（66%）から増加して 80% になったが、100%に達していない。また、「見通しの工夫」に課題を感じている学年部が2つあった。 ★【修正して継続】算数の授業において、児童に1時間の見通しを持たせるために、「め」「か」「ま」「ふ」カードを掲示して授業を開始する。
	②『児童アンケート』の重点的取組に関する項目でA評価65%以上		◆「とよだのきまり」を守る意識の育成	◆【1学期】 「ろうかや階段を静かに歩く」を徹底させるため、学級指導と合わせて、他学年の児童でも必ず声をかける	B	◇達成率は5月末（91%）から微減して 88% 。指導や声かけはできているが…。児童アンケート「ろうかや～歩いている」肯定的評価が79%であった。 ★【2学期も継続】教員の実施率も児童アンケートの肯定的評価も100%を目指す取組をおこなっていく。また、児童アンケートを毎月実施する。
	③「市学力状況調査」、国語、算数の知識領域で全国値超え60%以上	家庭	◆学校と連携した家庭学習習慣の定着	◆ノースクリンタイムを実施する ※家庭学習カードで家庭学習の取組状況を学期始め・終わりにチェックし、ほめたり、励ましたりする	D	◇以前から家庭に「家庭学習時はノースクリンタイム（テレビ・スマホ等消す）」を呼びかけていたが、達成率（ 41.2% ＊6月時）は5割を切っていた。 ★【継続】9月に「ノースクリンタイム」の取組状況を各家庭に聞き取り、その結果や取組の継続について各家庭に周知する。
		地域				
相手や状況を考え、思いを伝え合う 子どもの育成	④国語・算数の単元テスト【思～表】の平均70点以上	学校	◆協働的な学びを育てる「みんな活躍授業」の日常化	◆聞き方「あいうえお」話し方「かきくけこ」を意識させた「ぶらぶらタイム」、「グループ（ペア）学び」の場を毎時間設定する	C	◇達成率は5月末から変わらず 68% であった。「聞き方」を中心に指導している学年部が1、「話し方」に課題を感じている学年部が2だった。 ★【修正して継続】算数の授業において、聞き方・話し方（常時掲示）を意識させた「グループ（ペア）学び」の場を毎時間設定する。
	⑤『児童アンケート』の重点的取組に関する項目でA評価60%以上		◆相手を思いやる気持ちの育成	【1学期】 ◆あいさつの大切さ（意義）を適宜指導する ◆「先手あいさつ、あいさつ返し」の取組状況を帰りの会で振り返らせる	C	◇「帰りの会」で振り返らせるようにしたので達成率が65%から 69% に微増。 ★【2学期】「あいさつ」の指導・アンケート（毎月）を継続するとともに「相手のことを考えた言葉遣い＜保護者・児童アンケート（1学期）で肯定的評価が低い＞」の指導、取組状況の振り返りを実施、児童アンケートも毎月実施する。
	⑥「市学力状況調査」、国語、算数の活用領域で全国値超え60%以上	家庭	◆家庭・地域でのあいさつの推進	◆家庭・地域でのあいさつを声かけし、あいさつができた場合はほめる	未調査	◇機会（PTA、CS、校区ネットワーク会議、公民館運営委員会、学校ホームページ、すぐーる等）あるごとに声掛け（周知、様子）してきた。 ★【継続】今後も機会あるごとに声掛けをおこなっていく。
		地域	◆各教科、生活科、総合的な学習の時間等への学習支援の推進	◆スクスクプロジェクトの計画や学校の要請に応じて、学習支援に参加する	A	1年＊見守り 2年＊校区探検 3年＊校区探検 4年＊中津干潟 5年＊手縫い 6年＊ミシン縫い
共に学び共に行動できる 子どもの育成	⑦『児童アンケート』で「めあてを持って学習した」「調べ学習ができた」等に関する項目でA評価60%以上	学校	◆生活科・総合的な学習の時間を中心にした協働的な学びの推進	◆生活科・総合的な学習の時間を中心に、互いの考えを伝え合う場を適宜設定する	B	◇「毎時間設定」から「適宜設定」にしたことで達成率が5月末（57%）から 79% に上昇した。 ★【修正して継続】生活科・総合的な学習の時間を中心に、互いの考えを伝え合う場を適宜設定する。
			◆自己の取組状況や変容を実感させる場の保障	◆無言清掃や人間関係づくりプログラムの後に取組状況を振り返らせる	B	◇「振り返りの場」を無・人に焦点化。達成率が5月末（75%）から 83% に。 ★【期間限定（～10/17）】運動会練習後に「めあて」を振り返らせる場を設定するとともに【 焦点化して継続 】無言清掃や人間関係づくりプログラム後に振り返らせる場を設定する。
	⑧『児童アンケート』で「みんなと一緒に学習して楽しかった」など協働的な学びに関する項目でA評価60%以上	家庭				
		地域	◆地域（生活、歴史、文化、課題等）の伝承の推進	◆ゲストティーチャー等で児童との関わりがある場面では積極的に地域や地域に関連する情報を伝える	A	1年＊昔の遊び 2年＊公民館 3年＊祭り 4年＊中津干潟 5年＊防災 6年＊街並み探検
MSGの徹底	⑨校務にかかる時間が確保できた70%以上	学校	◆校務分掌や会議、行事の見直し、改善	◆随時、状況（分掌業務、時間配分、議題等）を検証し、分掌業務、会議等を効率的に実施する ◆行事毎に振り返りを行う（改善Ver.の保存等）	A	◇随時、状況を検証し、分掌業務、会議等を効率的に実施し、行事毎の振り返りも行えている。 ★【継続】今後も、随時、状況を検証し、分掌業務、会議等を効率的に実施し、行事毎の振り返りもおこなっていく。
	⑩定時退庁日が完全実施できた80%以上		◆定時退庁日（金曜日）の完全実施	◆タイムマネジメント（優先順位や曜日等）を実施する ◆毎週の定時退庁日に声をかけあう	B	◇達成率は5月末から変わらず、 78% であった。 ★【改善策を講じて継続】改善策（時程表の変更によって 毎週金曜日の下校時刻を20分繰り上げ ）を2学期より講じて定時退庁日の完全実施を目指す。
	⑪『学校アンケート』で「支援できた（地域、家庭）」70%以上	家庭・地域	◆学校の教育活動、児童の安心・安全、環境整備の支援	◆学校運営協議会のもと、地域（スクスクプロジェクト）、家庭（PTA）が協働し、学校の支援体制を整備しながら、支援活動を実施する	A	◇プール見守りの協力について地域や家庭に呼び掛けた結果、 5週間で延べ91名 の協力をいただいた。 ★【継続】今後も様々な支援活動の実施に向けて、必要に応じて呼び掛けをおこなっていく。